

1 学期終了まで2週間になりました！

4月の始業式で、田尻町立中学校の校訓である「自立・友愛」についてお話したのを覚えていますか。1年生は、5月に淡輪にある青少年海洋センターで宿泊体験をしました。みんなで力を合わせて漕いだカッターボート体験や美味しいカレーを作った野外炊飯など、クラス・学年の仲間と力を合わせて頑張ったことが、今の仲間づくりにつながっていると思います。この調子で、2学期の合唱コンクールや体育大会など、中学校での初めての大きな学校行事でも、成長した姿を見せてください。2年生は、例年なら無かった「万博校外学習」が思い出に残ったことでしょうか。私は、一緒に行くことができませんでしたが、出発式で「自立・友愛」を大切にしたい校外学習にしてくださいとお話しました。立派にやりきったことを学年の先生から聞いてうれしく思いました。2年生の皆さんのことを頼もしく思いました。そして、3年生。去年から再開した沖縄修学旅行に行きました。今年も、平和学習を中心に据えた素晴らしい修学旅行になりました。今年の沖縄修学旅行を振り返りますので、3年生はもちろん、1・2年生の人も読んでください。

**今年も最高の沖縄修学旅行でした！**

3年生の皆さんは、6月9日(月)から11日(水)まで沖縄へ修学旅行に行きました。3日間とも晴れという過去に無い最高のお天気に恵まれました。感動した場面がたくさんありました。初日、関西国際空港から飛行機が離陸する瞬間に、小さな歓声が上がりましたね。やはり、誰もが緊張する瞬間でした。直ぐに冷静になった皆さんは、飛行機に乗り慣れているかのような機内マナーで驚きました。沖縄までの2時間のフライトがあっという間でした。着陸後、お世話になった客室乗務員さんにお礼を言うと、「田尻中学校の生徒さんの機内マナーがとて

も良かったです。3日間の修学旅行が無事に進むことをお祈りしています。」という言葉いただきました。嬉しかったです。お昼ご飯のお弁当は、バスの中で食べました。31℃という熱い中、クーラーの効いたバスの中で幸せでしたね。その後、系数豪アブチラガマに入り、80年前に繰り広げられた悲惨な状況を教えていただきました。案内人の方から、「素敵なお子たちです。案内できて嬉しく思いました。これまで数多くの中学生を案内してきましたが、田尻中学校の生徒さんが一番です。」と同行した先生に言ってくださいました。続いて、ひめゆり平和祈念資料館では、ひめゆり学徒隊の手記をくいいるように読んでいましたね。皆さんの真剣な表情に感動させられました。とても濃い時間が流れていました。その後、平和記念公園で、平和セレモニーを行いました。生徒会代表の武島さんが平和の誓いを述べ、垣内さんと林さんが千羽鶴の奉納を行い、みんなで黙とうしました。ホテルでは、お腹いっぱいになるまで、夕食バイキングを楽しみました。この時も、食事会場の支配人の方から、田尻中学校の皆さんの食事マナーを褒めていただきました。その夜は、クラスごとに集まり開く会で語り合いました。



二日目は、ホテルのレストラン会場で、当時、宮森小学校の5年生だった久高さんから、宮森小学校に墜落した米軍機の事故について、お話を聞きました。講話の後で、久高さんが私に対して、「田尻中学校の生徒さんは、意識が高いです。来年も沖縄に来られるなら、是非、お声かけください。」と言ってもらいました。出発前に、この修学旅行での皆さんの態度次第で、後輩たちに影響があることを学年の先生から話されていましたが、皆さんは、「是非、来年もお願いします。」と言われるほどの立派な態度でした。大いに褒めてあげたいと思いました。その後は、沖縄大学に行って、大学生の皆さんと沖縄の基地問題について議論したり、校舎の屋上から基地を見学したりしました。お昼ご飯には、お弁当の「タコめし」をいただき、浜比嘉島リゾートホテルのプライベートビーチでマリネ体験



を楽しみました。皆で「宝さがし」や「ビーチフラッグ」「やどかり捜し」などを楽しんだ後、大浴場でさっぱりしてから美味しい夕食バイキングに舌鼓を打ちました。夕べの集い「クラス対抗レクリエーション大会」も大いに盛り上がり、みんなが一つになりましたね。

三日目もお天気は良くとても暑かったです。むらさき村でサーターアンダギーづくり、シーサー色づけ、琉球藍紐アクセサリーづくりなどの作業を楽しみました。午後からの那覇市国際通りでは、班別自由行動で好きなお昼ご飯を食べて家族へのお土産を買いました。那覇空港には予定通り到着し、余裕を持って搭乗手続きをしました。帰りの機内で、機長さまから、田尻町立中学校生が沖縄修学旅行を終えて関西国際空港へ帰ることを機内アナウンスしていただき、改めて安全に運行していただいていることに感謝しました。学校に着くと、多くの先生が帰りを待っていてくれました。たくさんの保護者の方々が、遅い時間にも関わらず、お迎えに来てくださいました。今年も、平和な日本の大阪で、大家族としてのぬくもりが感じられる田尻町で暮らせていることに感謝しました。



感動の連続の3日間でした。最高の沖縄修学旅行になりました。この素晴らしい伝統を守って行きたいと願っています。

夢に向かってチャレンジする先輩から！

6月16日(月)の全校集会で、将来の夢に向かってチャレンジする先輩が作ったプレゼン動画を見ました。初めに、横井教頭先生から、田尻町事業「たじり夢サポ」の紹介を行った後、卒業生を含む2人がビデオで登場し、今取り組んでいる夢の話や熱く語ってくれました。身近な先輩の大きな夢の話や聞き、自分の夢について考えるきっかけになったと思います。数年後の報告が楽しみです。(校長 池本 勝利)



【たじり夢サポート事業】
将来の夢や目的を明確に持ち、夢を叶えようと志高く全力でチャレンジしている若者に対し、その夢を叶えるために必要な経費を補助することで、国際的に活躍する人材を輩出し、田尻町ひいては泉州地域全体の活性化をめざす制度

今後の予定

7/10(木)	5限後下校
7/14(月)	期末 三者懇談会(～17(木) 給食なし)
7/18(金)	1学期 終業式
7/22(火)	夏季休業 開始
8/6(水)	平和登校日(午前中)
8/25(月)	2学期始業式 【3年生】第1回学力診断テスト(2教科) 【1・2年生】夏休み課題テスト(2教科)
8/26(火)	給食開始 【3年生】第1回学力診断テスト(3教科) 【1・2年生】夏休み課題テスト(3教科)
9/2(火)	【3年生】大阪府チャレンジテスト
9/4(木)	【1年生】モアレ検査
9/18(木)	中間テスト1週間前
9/25(木)	中間テスト(～26(金))

子どもの主体性を育むには？

私は小学生時代、父親が数ヶ月ごとに買ってくれた「まんが日本の歴史(小学館)」に影響を受けて歴史が好きになり、社会科の教員としての生活を送るきっかけにもなりました。



続きが気になっても、父はなかなか買ってくれませんでした。半ば仕方なく、一度読んだ本を最初から読むことが何度かあり、その度にパズルの隙間を埋めるように本の中身をマスターしていきました。私にとっては厳しく、頑固な父でしたが、今は少しずつ感謝の気持ちを持つようになりました。

現在、私自身も中学・高校・大学に通う子を持つ親でもあります。今回は子どもが自分の好きなものを見つけ、主体的に努力できるように大切な事について考えたいと思います。

子どもには無限の可能性が 있습니다。そして、その可能性をうまく伸ばしてあげるのは大人の役割です。大人の保護のもとに安心して育っていく子どもは、寝返り、ハイハイ、つかまり立ち、ヨチヨチ歩きと、少しずつ自立していく過程で様々なものに興味・関心を持ちます。「何これ?」とか「何で?」と大人を質問攻めにする時期もありますね。

その様子を観察する中で、子どもが「どのようなことに熱中しているのか」を見極めることが最も大切だと考えます。親と一緒に遊んでいる場面、一人遊びしている場面、友だちと過ごしている場面など、できるだけ多くの場面の様子をつかむ事が大切です。また、子どもと実際に話をしながら、好きな事・やってみたい事を引き出すことも大切です。対話を重ねていくと、子ども自身が「自分は〇〇が好きなんだ」と改めて自覚することもあります。そこから、本格的に習い事として始める事もあるでしょう。

好きなことはあればあるだけいいと思います。それだけ多くのことに楽しく取り組めるだけでなく、初めは難しそうでも「まずやってみよう」というチャレンジ精神も身につけてきます。

気を付けたいのは、子どもの可能性を広げるために、親として子どもの意欲や主体性を十分に考慮してあげる事です。「あれもさせたい」「これも出来るようになって欲しい」という思いが大人側にはあると思いますが、習い事を始めるにしても、あくまでも子ども本位で決める事が重要だと考えます。

親の勧めがきっかけで自分の将来のきっかけを得た人も多いと思います。ポイントとなるのは、子どもの側から「面白い・やりたい・好き」という反応と行動を起こさせることです。常に「どうやって子どもの心に火をつけるか」を頭の片隅に置きながら、子どもに声をかける効果的タイミングを待ちます。すべてを子ども目線にするのではなく、選択肢を与え、主体的に「やってみたい」と決める形をつくる。

…しかし、これがなかなか難しいものです。

先日、ある大学教授の講演を聞きました。入学する学生の多くは、幼い頃から必要以上に干渉を受けてきた場合が多く、自分の行動を自ら選択し、自分の意志で決定した経験が極端に少ないと感じている学生が多いとのことでした。それに伴って、自分の行動に責任を負う覚悟も形成されにくく、つい他者のせいにする傾向が強いです。さらに、成人を迎えた頃に「あなたの人生なのだから、あなたの好きにしてください」と言われても、「自分の本当にやりたいことがわからない」と答える学生が増えているとのことでした。



子どもの主体性を奪う危険性は日々、高まっています。それは、スマートフォンです。

NHKによる調査では、幼児にスマホを週5日以上持たせている割合が2割近くいることが判明しています。2人も子を持つある母は乳児の世話をしている間、上の子にスマホで動画やゲームをさせているそうです。食事中、話しかけても画面に夢中で応じない時もあるそうです。

先日、病院の待合室でスマホを触る幼児に母が返すよう求めると、逆上したようにスマホで母をたたきそぶりを何度も繰り返していたという話を知人から聞きました。

以前「スマホ脳(アンデ シュ・ハンセン著)」という本について紹介しましたが、スマホやSNS、ゲームには依存しやすい仕組みがあり、脳が成長段階にある若者は、大人よりもコントロールが難しいそうです。

…幼少期から自分の意志で選択・決定する機会が少ない若者は、自我の芽生えが不十分で、自分の人生について主体的に前に進むことが難しいようです。スマホに触れてきた子どもたちは、何をやるにでもスマホに頼ってしまいがちです。

学習やスポーツ・文化活動を通じて、実際に体験することや仲間との関係づくりを図っていく今の生活を一日一日、大切に過ごす事が何より大切だと、改めて考えました。

(教頭 横井武志)